

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集!一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか?

- 正会員**
 当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。
 年会費 5,000円
- 賛助会員**
 当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メーリングリストでネットワークの情報が提供されます。
 年会費 5,000円(団体) 1,000円(個人)
- サポーター**
 当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



お問い合わせ・お申込み
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (しめっちネット)
 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201号(北海道NPOサポートセンター内)
 ☎ 011-200-0973 ✉ info@ishikarigawa-net.com
 🌐 http://ishikarigawa-net.com/

しめっちネットのHPで最新情報も見てね!

しめっちマスコット トーノくん

※「しめっち通信 vol.6」は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作されました。

しめっち 会員紹介 認定特定非営利活動法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク

本会は、札幌拓北高校理科研究部の研究活動をきっかけに、地元有志によって1997年6月に設立されました。設立以来、一貫して札幌市に唯一残る篠路福移湿原に生息する希少な動植物をはじめとした、自然を未来に残す活動を行ってきました。篠路福移湿原は、事業者による湿原への不法残土投棄が進められ、訴訟を通じ阻止活動を行ってきましたが敗訴し、残土持ち込みは行政も放任状態です。そのような逆境の中ですが、初心に返り、地元住民に向けて、篠路福移湿原の大切さ、希少性を一緒に考えながら保存してゆく活動を続けています。



しめっち通信 vol.6

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク The Shimecchi Report
 ニュースレター Sep. 2021



各班からの調査報告



ビーチコーミングのレクチャー

7/31(sat),8/1(sun) 浜厚真 Bio Blitz ~キセキの海岸で本気のイキモノ探し~

2021年夏、(仮称) 苫東厚真風力発電事業の計画地となっている浜厚真において、市民科学による生物相一斉調査 (BioBlitz) を実施しました。

計画地となっているエリアは、日高・胆振地方ではおそらく唯一残されている幅広い自然海岸を含んでおり、美しい景観を誇るだけでなく、周辺の開発によって生息地を奪われた多くの希少生物のレフュージア (避難場所) として機能していると考えられます。実際に、日本野鳥の会の調査によるとタンチョウ、シマクイナ、ヘラシギ、オジロワシ、オオワシなどの希少鳥類が近年においても生息しており、チュウヒにいたっては国内繁殖つがいの約8%が確認されていますが、鳥類以外の生物相に関する知見が乏しい現状にあります。

そこで、この唯一性が高く、希少な環境が失われる前に、当地の生物相をきちんと記録し、必要な保全策を検討するとともに、その価値と魅力を多くの人と共有することが必要と考え、「浜厚真BioBlitz 2021」を企画しました。BioBlitzでは、各分類群の専門家、市民科学者、ボランティアなどが協力し、生物種を可能な限り記載してインベントリー (生物種のリスト) にまとめる他、地域住民を対象にした自然観察会を実施しました。

北海道の限りある優れた自然と景観に、ともすれば不可逆的な変化をもたらしてしまう自然エネルギー開発が各地で問題になっている現状かと思えます。今回のイベントを通じて、生物多様性保全と自然エネルギー開発の両立について、社会全体として考えるきっかけにできればと考えています。



※新型コロナウイルス感染対策のため、7月22日(木・祝)から9月12日(日)まで臨時休館となりました。最新の情報は、北海道博物館ウェブサイトをご覧ください。

2021年7月10日(土)から9月20日(月)まで、北海道博物館の第7回特別展「あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」が開催されました！

ミズゴケのふわふわ感も体感できるフットオン展示(足でさわって楽しむ展示)など趣向を凝らした展示が満載。幻となった生き物も含め、湿地で見られる鳥や魚、昆虫や植物が大集合しており、石狩湿原の過去から現在までふりかえる展示も圧巻でした。「湿地の沼ハマリ度診断」もあって、当然私はハマリ度マックスでした。

売店で販売されている特別展の図録は、湿地と湿地の生き物の専門家、道内ラムサール湿地関係者による解説文が豊富で、必読の一冊となっています。132ページもあって、パラパラとめくると見えてくる秘密も隠されています。

8月15日(日)には、しめっちネットも協力する特別イベント「夏だ！海だ！川だ！湿原だ！全部まとめてシッチフェス！」の開催を予定していましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となってしまい、オンライン開催となりました。本来であれば湿地ブースや湿地ウォークラリー、湿地ミュージカルや湿地落語などのステージイベントを用意していたので残念ですが、またどこかでリベンジ開催できればと思いますのでご期待ください。オンライン開催では、北海道博物館のサイトに湿地関連の様々なプログラムを紹介しています。ぜひご覧ください！

北海道博物館は道による感染拡大防止により、5月1日(土)から7月11日(日)までと、7月22日(木・祝)から9月12日(日)の期間が臨時休館となり、特別展も中止していました。休館中もホームページで「特別展「あっちこっち湿地」×おうちミュージアム」でいろいろと楽しめますし、無料のミュージアムアプリ「ポケット学芸員」で特別展のガイドブックを読むことができますので、いろんな形で特別展をお楽しみください！

※休館情報は8月末現在のものです



しめっちらら しめっちな昆虫トンボ

みなさんは、トンボの成虫を何月頃に見ているのでしょうか？「赤とんぼ」として有名なアキアカネや日本最大のトンボであるオニヤンマは、8～9月に観察できることが多いと思います。今回ご紹介したいのは、雪が解けたらすぐに飛ぶ姿を見ることができる、オツネトンボという種類です。漢字で書くと「越年」トンボ。卵や幼虫(ヤコ)ではなく成虫で越冬する、体長3cm弱のトンボです。9月頃に羽化し、翌年の春から夏にかけて産卵し、8月頃まで見られます。越冬時期には、樹皮の隙間や裂け目、落ち葉の下、倉庫や物置の中などで寒さをしのいでおり、数百匹の集団越冬の記録もあります。枝や枯草にそっくりな褐色の体のため見つけにくいかもしれませんが、ぜひ探してみてください！



宮島沼大富原野森づくり

宮島沼の北東にある防風林には、石狩川流域の平野部ではもう他に見ることができないゼンテイカの大群落が広がり、地域の原風景を今に残す貴重な財産となっています。しかし、防風林の更新作業に伴って乾燥化が進み、外来植物が繁茂するなどの影響が心配されています。そこで、ゼンテイカ咲き誇る防風林を後世に残すため、宮島沼の会としめっちネットが外来植生の抜き取りなど保全活動を5月から9月にかけて実施しています。ぜひご協力ください！



星置養護学校高等部でのミズゴケ増殖活動

6月25日、今年で4年目になるミズゴケ増殖活動を行いました。石狩大湿原に豊富にあった高層湿原のミズゴケ群落、いま湿地の再生事業を行うなか、このミズゴケがもうわずかしか残っていないため、その増殖が不可欠です。この手間と時間のかかる育成活動を生徒たちにお願しています。

ここでの増殖方法は、熊本の東海大学農学部の星先生が開発したフロート式で、故辻井達一先生の紹介によるもの。フロートに作った孔にミズゴケを1本ずつ差し込んでいく、根気の要る作業。生徒達も頑張りますが、先生たちもとても熱心に指導していました。3年経ったミズゴケは立派に育ち、現地導入を待っています。できれば生徒たちとミズゴケを植えに行きたいです。

このように手間と時間のかかることは福祉・教育・医療分野との連携が馴染み良く、またそのような繋がりで環境保全が進められるように思えます。今後もこの環福教連携に力を入りたいです。



幌向自然再生地の現地見学会

7月18日にふらっと南幌さん主催の幌向自然再生地の現地見学会に参加してきました。地域連携で導入してきた湿原植生が花を咲かせるまでに至り、徐々にではあるものの、美しい風景が形成されつつあります。見学会では、植生の解説や、現地育成のミズゴケ補修作業をおこないつつ、ミズゴケ里親制度で育成していただいたミズゴケの現地導入なども行いました。こうした取り組みが広がり、石狩湿原の保全や再生が進んでいくことを願ってやみません。



音声SNS“clubhouse”で湿地の魅力などを発信中

湿地について広く知ってもらうため、音声SNS“clubhouse”で、「ハスカップから始まる湿地物語共和国」というroomを開き、3回/月程度、湿地の魅力などを発信、対話しています。開催予告は、しめっちネットのFacebookページ等でお知らせしますので、ご参加下さい。

しめっち 今後の予定

詳しい内容や日時が決まり次第、お知らせします！

- ・しめっちカフェ 9月中、10月中
- ・ヒシの実採取 9月中
- ・しめ縄づくり 12月中
- ・しめっちフォーラム 2月19日(土)

